

(2011年10月26日実施)

第13回 JOMF 海外医療情報交換会 東京開催のご報告 (記事スタイル)



2011年10月26日、如水会館スターホールにおいて 海外医療情報交換会が開催されました。ゲストスピーカーとして全日空様より五味秀穂先生にお越しいただき、『慢性疾患を持つ社員の派遣について ～「究極」のパイロットの健康管理を例に～』と題した講演をして戴き、引き続き、基金の拠

点診療所から4名の医師による主に感染症に関する現地報告(日暮真由美先生からはメンタルヘルス報告)をして頂きました。

今回の概要は、以下の通りです:

【来場者】

総数 114名:うち、医療関係者 57名に対し人事総務海外部門 57名と、前回より医療関係者の比率が高い、また、男性 62名、女性 52名と男性の方が若干高比率となっていたのが特徴でした。

【各講師発表内容】

1. 五味先生: 自己紹介を兼ねたロンドン日本クリニック(北診療所)での患者さんたちについてお話をされた後に、究極の健康管理規定とも言われる航空乗務員の為の『航空法で定められた航空身体検査』基準の紹介と、一旦不適合とされたパイロットたちを再び大空に舞い戻らせる為の「ウェイバー制度」、毎月開催されている国交省の審査会の内容等について語られました。
2. 日暮先生: メリオイドーシスという東南アジア(含豪国)の風土病患者が出た旨の報告に始まる感染症臨床についてのお話があり、アンケートでも何名もの方が「メリオイドーシスについては初めて聞いた!」と新たな知識を得ることが出来た様です(もともと、日暮先生ご自身も初体験とのことでしたが・・・)。
3. 菊地先生: 診療所での臨床報告と、マニラにおける薬局事情(処方書に書かれている薬物量の割算や掛け算、暗算ができないことや、同じmgの別の薬を安易に売ろうとするケースがある等)に関する報告に対してアンケートでも「種々の重い病気にも対応されている」、「マニラの薬局のいい加減さに驚くばかり」といったコメントが多く寄せられていました。
4. 原先生: 臨床報告と、新型インフルエンザの罹患者が未だ多くいること、また、ヒトヒト感染を疑うような事例が出てきていること、更に新型インフルエンザ対応の新しい病棟が **Persahabatan** 病院内に近々完成予定であること等の報告がなされていましたが、アンケートでも「(最近はあまり話題にも上らないことが多いが)新型インフルエンザのリスクについて、再認識しました」、「新病棟が完成したら報告が欲しい」という声と、「**Prodia**」という健康診断施設についての情報は有難い」といった声が寄せられていました。
5. 日暮真由美先生: 長年続いた小川原純子先生の後を受けて、現地で心療内科医(ご本人は糖尿病の医師でもあります)としての活動をされた引き継ぎ後の報告を戴きました。アンケートでは、「後半の三つの事例紹介が判りやすい報告だった」、「駐シンガポール邦人の100人に1人の割合(1%)で来院されていることに驚いた」等の声が寄せられていましたが、このほかに、「既に何らかのMH疾患を持っている方が存外に多く来星(赴任)されている」ことにも関心が集まっていました。
6. パネル討論: 今回、情報交換会での初の試みとして取り組んできたのですが、「初の試みとしての企画は面白い、でもテーマと違う話題になっていた」というコメントが散見されました。モデレータとして大越先生とも何度も打合せをしてシナリオ等もつくっていたのですが、次回パネルを実施するには改善をしたいと思っています。(元々は、各地の先生達から治療の継続についての問題等を話して貰いながら、五味先生からもパイロットの健康管理、その他職員の健康管理についての実際適用方法等を交えつつ、生活習慣病者の継続フォローをする為の仕組みを構築できないかという話に展開させ、大凡の意見が出揃ったところで、クロージングの場面で、

上から五味先生(全日空)、
日暮先生(シンガポール)、
菊地先生(マニラ)、
原先生(batik 姿ジャカルタ)、
日暮真由美先生(シンガポール)



大越先生から「一般企業にパイロット並みの健康基準をと言っても難しいかもしれないので、この辺が落とし所では…」というご説明を戴くという段取りでした…。また、余談ですが男性より女性が、そして、一般職より医療関係職の方からの点数の方が高い、、というアンケート結果となってしまいました(看護師保健師方の点数が甘い?:笑)。



—今回はいつものセミナーのように雨に降られませんでしたね？

A: 昨年の情報交換会もそうでしたね。五味先生を訪ねて羽田空港に伺った際は雨でしたので、海外拠点の先生達が晴れ男/女なのか、会場のある如水会館が「晴らしの場」となっているのか、今も謎です:笑

—今回「生活習慣病」をテーマとして取り上げた理由は？

A: 前回情報交換会以後の情報収集や、これまでのセミナーアンケートの結果、メンタルヘルス(283名中148票)に次いでセミナー開催のご要望が多かった(283名中59票)こと、またこの一年間の基金へのお問い合わせでも「余人をもって代えがたい生活習慣病患者を海外派遣することについて」のご相談が、多くみられたことから決定しました。アンケートを取っても結果を分析もしないのではアンケートの意味がないと考えているので、今後のセミナー等のテーマも同様の手法で決定していきたいと考えています。

—大阪での開催は12月ですね、第九回？

A: はいそうです。12月13日午後大阪商工会議所で実施予定です。急いで次の案内作業にかかりたいと思います。今回、ある愛知県の会員企業の方から、『大阪セミナーにも、今回の東京での交換会にも上司の方の理解があったので出張させてもらいました。是非、名古屋でも開催を!』というアンケートへのコメントを戴きました。将来的には東京と大阪だけではなく、名古屋や豊橋といった中部地区での実施もしたいと考えていますが、講師の先生方の日程確保という問題もあり、名古屋周辺で開催して関西圏の企業にもお越し戴いたり、横浜あたりで関東圏の企業の参加を募ったり、、といった実施方法が可能かどうか、の見極めもしたいなと思っています。

海外拠点の先生に一年に二度もクリニックを休みにして日本帰国をお願いするのは難しいですので、この部分は基金が総括的な形でご報告をしたいと考えています。今回、情報交換会の事前打合せの段階から、五味先生に大阪でのセミナーの件をお願いしたところ、ご多忙中にも拘わらずご快諾を戴きましたので、大阪開催に向けて準備を推進しているところです。

「うちの会社で場所も人員も確保するので、出前形式のセミナーをやってほしい!是非来てほしい!」といったご要望が潜在的にあることも承知していますので、講師の先生には大変かもしれませんが、企業とJOMFが共同作業でセミナーを実施できれば素晴らしいことだと考えております。幸い、一部企業の方には、各種セミナーやその他の情報交換等にご参加戴いたりしていますので、徐々にではありますが、基金と会員企業間の距離が縮まりつつあると感じています。

—特に印象深かったものはありますか？

A: 各国夫々にお国事情を感じるような拠点医師報告でしたが、パイロットの健康管理術が「究極」と言われるゆえんが判ったこと、①メリオイドシスという病気について「ゴルフ場で池ポチャしてもむやみに汚水に足を踏み入れるな」というアドバイス、②マニラの薬局の人の計算力、薬がない場合の対応、③インドネシアでヒトヒト感染鳥インフル発生か?という点、④駐星邦人の1%がメンタル的悩みを持っている点に関するお話が私には印象的でした。あと、原先生がパティックを着用されていたので来年は他の先生も民族衣装に身を包んで、、等ということになるかもしれませんね?:笑

—次回12月の大阪商工会議所の次のミニセミナーは？

A: 1月11日午後大阪商工会議所で、本年6月3日に東京開催した、『海外企業戦士とご家族の感染症リスク対策』～恐ろしい狂犬病のリスクから社員やご家族を守る為に～を第十回ミニセミナーとして実施します。「感染症」全般についてのお話を東京医科大学病院の濱田教授に、動物に咬まれて発症してしまうと、ほぼ100%死亡するという恐ろしい『狂犬病』について、駒込病院の菅沼先生に、東京から出張をして頂いてお話を伺えます。大阪の皆さん、12月13日、1月11日(本年初回と同じ日!)と連続致しますが、『どうぞ期待』です!

(JOMF ニュースレター編集部)